

テーマ
日本の文化・社会をテーマに論文を書く
目標
<p>学習レベル 4</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の文化・社会に関して理解を深めるために、自分が興味のあるテーマについて調べ、分析できる。 聞き手、読み手にわかるよう、ポスターにまとめて発表できる。 論文にまとめることができる。
コミュニケーション能力指標
<p>4-e. 現代社会の多様なライフスタイルに関する記事を読んで、労働と余暇について自分の意見を、レポートにまとめることができる。【趣味と遊び】</p> <p>4-a. 日本と相手の国における通信手段について書かれた文章を読んで、相違点や類似点について、話し合うことができる。【人とのつきあい】</p> <p>4-a. 日本と相手の国の行事の特色や共通点・相違点などについて説明したり、自分の考えを書いたりできる。【行事】</p> <p>4-c. 現代社会の課題について書かれた文章を読んで、自分の意見を含めて、口頭または文章で意見を交換できる。【地域社会と世界】</p> <p>4-d. 日本と相手の国との関係について調べ、自分なりの意見をレポートにまとめることができる。【地域社会と世界】</p>
学習シナリオ
<p><場面状況></p> <p>対象学生は、それぞれの国で日本語・日本文化を約2~4年間、専攻として学び、日本の大学で日本語能力及び日本事情・文化への理解の向上のために主に文部科学省の奨学生として来日した留学生である。今学期はインドネシア、インド、韓国、フランス、ドイツ、ロシア、ポーランド、ルーマニア、チェコからの12名である。これからN大学で1年間の留学生活を送る。彼らは日本についての研究者や専門家になったり、日本と関わりのある仕事につくことを将来の目標としているが、自分の母語でも調査をしたり、論文を書いたりしたことがない学生が多い。またほとんどが初来日の学生である。来日当初の日本語力は日本語能力試験N3~N2レベル（中級、中上級）である。</p> <p>一方で、本プログラムの修了課題として論文執筆が義務づけられている。以前は、論文執筆は（個別指導の必要性から）授業外の課題とされていたが、論文執筆に対する学生の不安も負担も非常に大きく、また、年度末に指導教員に負担が集中してしまうことから、1年間かけて授業内で徐々に論文指導をしていくことにした。</p> <p>前半の Semester（秋学期, 90分×週1コマ=15回）では、日本の文化・社会に関して、文献を読み、ディスカッションを通して、読解力を身につけつつ知識を増やしつつ、論文執筆に必要な日本語の文法・語彙・表現を学習する。そして、研究計画書を完成させ、そのプレゼンテーションを行う。と同時に、調査・研究方法の基礎を学ぶためにグループで日本人に模擬アンケートやインタビューを実施し、その調査結果を発表する（この模擬アンケートとインタビューは他の担当者の授業で実施。そのため、本実践課題では扱わない）。そして、後半の Semester（春学期, 90分×週1コマ=15回）では、前期に立てた研究計画に従って、実際にアンケート・インタビュー調査をし、結果を分析、ポスター発表と論文にまとめる。本実践課題では、実際に実施した前半の Semester について記述する。</p> <p><活動の流れ></p> <p>【プレコミュニケーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の言語・文化・社会、人々の考え方等についてのテキストを読み、各国との違い等についてディスカッションし、毎授業、自分の意見を200字程度にまとめる。（全8回） 論文執筆のための日本語表現や論文構成（表記法・書き言葉の文体・段落・テーマ述べ・理由/意見述べ・問題提起・引用・手順・定義・引用文献の提示方法・研究計画書の書き方）の学習。その表現を用いた短作文・小論文（400字程度）の作成。（全8回） Semesterの最初に、この1年間で調査を実施し、論文（図表・参考文献を入れてA4, 10頁まで、8000~9000字程度）を書くこと、最初の2ヶ月でおおよそのテーマを決める必要があることを示し、動機づけを行う。

【コミュニケーション活動】前半の Semester の後半 7 回（9～15 回目）の授業（週 1 コマ（90 分）×7 回）

【研究計画書の作成とそのプレゼンテーションまで】

第 9 回目

【到達目標の確認】

1. Semester の最初に提示した論文執筆（来学期の修了時）の最終課題を再確認する。また、論文執筆には、必ずアンケートかインタビュー調査を含むことを周知する。先輩が書いた論文を数本見せ、成果物をイメージさせる。
2. （これまで考えていた）論文テーマの概要を一人ずつ発表（1 分程度）。

【文献調査】

3. 文献調査の方法（国立国会図書館、CINII、各大学の OPAC の使い方）を、パソコン（ネット接続）を使って学習。実際に各々が論文執筆に必要な文献を入手する。
4. 【宿題】次の授業までに論文執筆に必要な文献を 1 つ読んで、書誌情報・文献の要旨・自分の論文との関連性を 800 字程度にまとめる。←形成的評価対象課題，3 週間前から指示
5. 【宿題】Semester 前半で学習した内容を踏まえ、研究計画書（背景・目的（研究課題）・研究方法）800 字程度のドラフトを書く。【10 回目まで】

第 10 回目

7. ペアで課題（読んだ文献のまとめ）を読み合い、間違い等をお互いで修正すると同時に、内容について質疑応答。その間、教師も巡回し、間違いを修正したり、アドバイスをを行う。
8. 課題について一人ずつ発表し、質疑応答。（一人 3 分）
 - ・教師は重要表現等を板書し、共有。（褒めポイントを見つけて必ず褒める。一方で、文献の読み込みの程度についてだけでなく、学生の論文テーマと選んだ文献との適切性についてもアドバイスを心がける。）
 - ・発表を聞いている学生には、今後の調査にとって有益な質問・提案を心がけるように指示。
9. 【宿題】2 つめの文献を選んで、書誌情報・文献の要旨・自分の論文との関連性を 800 字程度にまとめる。←形成的評価対象課題，2 週間の休みを利用した宿題

第 11 回目

10. ペアで課題（読んだ文献のまとめ）を読み合い、間違い等をお互いで修正すると同時に、内容について質疑応答。その間、教師も巡回し、間違いを修正したり、アドバイスをを行う。
11. 課題について一人ずつ発表し、質疑応答。（一人 3 分）
 - ・教師は重要表現等を板書し、共有。（褒めポイントを見つけて必ず褒める。一方で、文献の読み込みの程度についてだけでなく、学生の論文テーマと選んだ文献との適切性についてもアドバイスを心がける。）
 - ・発表を聞いている学生には、今後の調査にとって有益な質問・提案を心がけるように指示。
12. 研究計画書のドラフトの回収→形成的評価対象課題，第 12 回目の授業までに添削

第 12 回目

13. 研究計画書のドラフト（添削済）を返却。
14. ペアで宿題の研究計画書を読み合い、間違い等をお互いで修正すると同時に、内容について質疑応答。その間、教師も巡回し、添削内容について補足説明をしたり、アドバイスをを行う。
15. 研究計画書の概要について一人ずつ発表し、質疑応答。（一人 3 分）
16. 【宿題】研究計画書の修正。←第 15 回目の授業の最後に回収

第 13 回目

17. 研究計画のプレゼンテーションで使用するパワーポイント資料の作成。
 - ・基本的なパワーポイント操作について確認。
 - ・文末形式（文章形式→メモ形式）の変化のルールを確認。
 - ・各自、資料を作成。ペアでの学び合いを推奨。教師は巡回指導。
18. 発表の順番を決める。

第 14・15 回目

19. 研究計画についてのプレゼンテーションと質疑応答。←総括的評価対象課題
 - ・一人 10 分発表+3 分質疑。
20. 【宿題】研究計画書の提出。←総括的評価対象課題
21. 【宿題】授業終了後にプレゼンテーションの PPT 資料の提出。←総括的評価対象課題

総括的評価

- ・研究計画書
- ・研究計画についてのプレゼンテーション（学生による相互評価含む）

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015_実践課題

作成者：櫻井千穂（大阪大学・研究員／日本語）

ワークシート3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化・社会に関すること、特に自分が関心のあるテーマに関連した語彙・表現がわかる 論文によく使われる表現・言語形式がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化・社会に関する文献を読んで、日本に関する知識を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み、様々な国から集まったクラスメイトとのディスカッションを通して、文化・社会を比較し、知識を深める
できる	<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のあるテーマに関連した文献（論文）を読んで大意（要旨）を理解し、まとめることができる 自分が関心のあるテーマについて調査計画が立てられる 調査・分析した内容を論文形式にまとめることができる（後期セメスター） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化・社会に関して興味・関心を持ち、研究テーマ（研究課題）を決めることができる その研究テーマにそって、調査・分析を進めることができる（後期セメスター） 	<ul style="list-style-type: none"> ポスター発表を通して、他の留学生や日本人と、文化・社会に関して意見交換を行う（後期セメスター）
つながる	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトとペアで調べてきたことや研究計画について話し合い、日本語の表現等を推敲する 研究計画をクラスメイトの前で発表し、質疑応答できる アンケート・インタビュー調査を実施することができる（後期セメスター） 調査内容を他の留学生や日本人の前でポスター形式で発表できる（後期セメスター） 	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトとペアで調べてきたことや研究計画について話し合い、内容を推敲する 日本の文化・社会に関するテーマで、アンケート・インタビューを日本人に実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 調査した内容を、授業外で発表したり、帰国後にさらに研究内容をさらに発展させたりする（授業後）
三 連 携	関心・意欲・態度/学習スタイル	日本の文化・社会に関して、自分の関心のあるテーマを選び、調査・分析をする	
	既習内容・経験/他教科の内容	プレゼン資料作成ソフト（PPT 他）の使用、コースの最終課題（修了レポート）との関連	
	教室の外の人・モノ・情報	アンケート・インタビュー対象の日本人	

総括的評価に関する指示文

皆さんは、このコースの最後に、日本語・日本文化・社会について論文（修了レポート）を書かなければなりませんね。この授業では1年後に論文が書けるようになるために、いろいろなことを学習します。

今学期の最終課題は、その論文の「研究計画書」を作ることと、研究計画書についての「プレゼンテーション」です。プレゼンテーションはこのクラスで行います。

研究計画書とプレゼンテーションに関する注意事項は以下の通りです。

提出物

【研究計画書】

1. 執筆要領（論文を書くためのルール）

- 1) 文字数：800字程度（A4、1枚程度）
- 2) 内容：研究背景・目的（研究課題）・研究方法を入れること
- 3) 先行研究：テーマに関する文献（論文や本）を2つ以上読んで、引用すること
- 4) 研究方法：アンケートかインタビュー調査を必ず入れること（*実際の調査は来学期に実施します）

2. スケジュール

- 1) ドラフト（下書き）の提出：2016年1月4日（月）
- 2) 原稿の返却・フィードバック：2016年1月13日（水）
- 3) 研究計画書（完成版）の提出：2016年2月1日（月）

【プレゼンテーションのパワーポイント資料】

- 1) 内容：研究計画書の内容をまとめる
- 2) 注意点：見やすさ、文末表現に気をつけること
- 3) 提出期限：2016年2月5日（金）

評価

「研究計画書」、及び、「プレゼンテーション（PPT 内容含む）」を評価します。

1) 研究計画書の評価

- ・背景・目的・方法の整合性があるか。
- ・文法・語彙・表現の使用は適切か。
- ・先行研究の適切な引用がされているか。
- ・十分な推敲がされたか。

2) クラス内でのプレゼンテーションの評価

- ・聞き取りやすい発表だったか（発音・流暢度）。
- ・発表態度（時間・視線・声の大きさ・聞き手意識）はよかったか。
- ・質疑に対して適切に応答できていたか。
- ・パワーポイント資料はわかりやすいか（日本語の正確さも含む）。
- ・わかりやすく、興味深い発表だったか。（学生の相互評価、学生用評価コメントシート）

総括的評価 1. 研究計画書に対する評価

評価基準	目標以上に達成	目標を達成	目標達成まであと少し！	目標達成まで努力が必要
	(4点)	(3点)	(2点)	(1点)
背景・目的・方法の 整合性 (×2)	背景・目的・方法の論理的整合性がしっかりとられていて、読み手にわかりやすく詳細に説明されている	背景・目的・方法の論理的整合性がある	背景・目的・方法に関連性はあるが、読み手にとってわかりにくい部分があり、論理的整合性が十分に考えられているとは言い難い	背景・目的・方法の関連性がほとんど考えられておらず、読み手にとって意味が通じない構成になっている。または、背景・目的・方法のいずれかが抜け落ちている
文法・語彙・表現の 適切性 (正確度)	テーマに必要な専門的な語彙・表現、論文執筆に必要な文法表現を使いこなし、自然な日本語の文章である	不適切な語彙・表現の使用はあるものの、既習の文法事項を使い、全体として読み手に十分意味が通じる文章である	文法・語彙・表現に間違いや不適切な使用があり、部分的に読み手にとって意味が通じにくい箇所がある	間違いが非常に多く、全体を通して、読み手にとって意味が通じない内容となっている
先行研究の引用	授業で調べた文献以外のものも含め、3つ以上の文献が適切に引用されている	授業で調べた2つの文献が適切に引用されている	文献の引用はあるが、引用・記述方法が適切ではない箇所がある	文献の引用がなされていない
推敲 (ドラフトとの比較)	内容・日本語ともにアドバイスを十分に生かし、自分でもさらに推敲を重ね、精度の高い文章となっている	内容・日本語ともにアドバイスをほぼ生かし、推敲がなされている	内容・日本語ともに修正されている箇所もあるが、そうでない箇所もある	ほとんど、もしくは、全く修正がなされていない

総括的評価2. プレゼンテーションに対する評価

評価基準	目標以上に達成	目標を達成	目標達成まであと少し！	目標達成まで努力が必要
	(4点)	(3点)	(2点)	(1点)
聞きやすさ (発音・流暢度)	ネイティブのような自然な日本語で大変聞き取りやすい	ノンネイティブの特徴は見られるが、概ね内容を理解できる	発音や流暢度にやや問題があり、時々理解できないことがある	発音が不明瞭で、フィラーが多く、内容があまり理解できない
発表態度 (時間・視線・声の大きさ・聞き手意識)	原稿を見ることもなく、発表時間内に、聞き手に重要なことが伝わるよう工夫がなされた効果的な発表である	ほとんど原稿を見ることもなく、発表時間内に聞き手がある程度意識した発表ができています	部分的に原稿に目をやるなど、聞き手を意識できている箇所とそうでない箇所がある	発表全体を通して、原稿を常に見ていたり、時間が考えられていないなど、聞き手を意識できておらず、わかりにくい発表である
質疑応答	聞き手からの質問全てに的確に答えることができる	聞き手からの質問にほとんどの的確に答えることができる	質問に的確に答えられる場合と、そうでない場合がある	質問に的確に答えられない
PPT 資料 (わかりやすさ・正確さ)	視覚資料（写真やイラスト、図表）を用いて、重要な点をわかりやすく伝える工夫がみられ、文字量も適切で、文法・語彙・表現も正確である	視覚資料を用いており、文字量が適切で、文法・語彙・表現もほぼ正確である	文字量が多かったり、文法・語彙・表現に間違いが見られ、わかりにくい箇所がある	視覚資料や文字量に工夫が見られず、文法・語彙・表現に間違いが多く、スライド全体を通してわかりにくい
わかりやすく興味深い発表か (学生の相互評価)	内容が大変わかりやすく、調査結果が知りたくなる非常に興味深い発表である	大体わかりやすく、興味深い発表である	わかりにくい部分が多いが、ある程度興味を持てる発表である	興味の持てない発表である

* 学生の相互評価(興味深い発表か)については、別途、学生に評価点(1-4点)とコメントを書き込めるコメントシートを配布し、記入させ、発表者本人にフィードバックする。
 この評価表には、学生から集めた評価の平均点を記入。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2015_実践課題

作成者：櫻井千穂（大阪大学・研究員／日本語）

目標分解表

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
日本の文化・社会に関する読解教材を読み、ディスカッション (8回) (日本語・文化と国民性・日本人の行動様式・宗教観・環境・情報社会・報道・科学技術)	日本語で書かれたまとまりのある文章に親しむとともに、日本の文化・社会に関する理解を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化・社会に関して、日本語で書かれたものをたくさん読み、話し合い、ある程度まとまりのある文章を継続して書くことで、日本語での読み書きに慣れ、論文執筆の下地ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 研究活動・論文執筆に必要な力 文献を読み、調査を実施し、論文を書くという活動を通して、課題設定から解決にいたる論理的思考力を養う 日本語力 自分の関心のある分野に関わる専門的な語彙や表現を理解・使用できると同時に、論文執筆に必要な日本語の知識を得て、活用できる。さらに、研究に必要な読み書きスキルを身につけることができる 日本の文化・社会を理解する力 日本の文化・社会に関して、自分自身が関心のあるテーマを調査することで、さらにその知識を深め、活用できる
論文執筆のための日本語表現や論文構成 (表記法・書き言葉の文体・段落・テーマ述べ・理由/意見述べ・定義・問題提起・引用・手順・定義・引用文献の提示方法・研究計画書の書き方) の学習 (8回)	論文執筆に必要な日本語表現や論文構成がわかり、使える		
【形成的評価】・読解教材に関する意見文 (200字程度) を毎回提出。→日本語・内容に関するフィードバック ・論文執筆に関する表現を用いた短文 (400字程度) を毎回提出。→日本語・内容に関するフィードバック			
論文執筆という最終目標と手順の再確認	活動への動機づけとして、現状確認と最終目標についての明確なイメージを持つことができる	日本の文化・社会に関して、自分が関心のあるテーマを選択し、そのテーマについて書かれた文献や先行研究を調べ、その知識を活用することができる	
先輩の論文を見て、成果物をイメージする			
論文テーマ (何について書きたいか) を一人ずつ発表 (各1分)	日本語で書かれた、自分が必要とするテーマについて書かれた論文や著書を検索し、入手することができる		
文献調査の方法 (国立国会図書館、CINII、各大学のOPACの使い方) を、パソコン (ネット接続) を使って学ぶ			
それぞれに論文執筆に必要な文献を探し、入手する	自分の関心のあるテーマについて書かれた論文や著書を読んで、概要を理解し、要旨をまとめることができる		
書誌情報、参考文献の記載方法を確認			
自分のテーマに関係のある文献を1つ読んで、書誌情報・文献の要旨・自分の論文との関連性 (なぜその文献を選んだか) を800字程度にまとめる (2回)			
ペアで個々の課題 (読んだ文献のまとめ) を読み合い、間違い等をお互いで修正すると同時に、内容について質疑応答			
課題について一人ずつ発表・研究計画へのアドバイス (3分)			
【形成的評価】・文献2本のまとめ (各800字) を提出。→日本語・内容に関するフィードバック ・研究計画書のドラフト (800字) を提出。→日本語・内容に関するフィードバック			
ペアで研究計画書 (ドラフト) の読み合い・話し合い・修正	研究計画書の作成ができる	論文を書くための研究計画を立案し、その内容を他者にわかりやすく伝えることができる	
研究計画の概要を一人ずつ発表・質疑応答・アドバイス (3分)	研究計画について発表資料 (PPT) を使って、聞き手にわかりやすく発表することができる		
研究計画の発表資料 (PPT) の作成			
研究計画の最終プレゼンテーション (10分+質疑3分)			
【総括的評価】・研究計画書 (800字) (成績対象) ・研究計画についてのプレゼンテーション (成績対象, 学生の相互評価含む) ・プレゼンテーションの PPT 資料 (成績対象)			